

生徒諸君へ（学年末に寄せて）

福岡県立小郡高等学校
校長 幾竹 浩子

新型コロナウイルス感染症の対応で学校が3月2日から臨時休業となり、いつもとは違うリズムで迎えた学年末となりました。緊急な時にこそ、人としての良識ある判断と行動が求められ、品性ある対応を考える機会となりました。昨年、東北大学の斎藤先生から、東日本大震災の体験を学び、若い世代の高校生の力の必要性を感じました。今この状況で、一人一人が知恵を出し、力を合わせて危機を乗り越えていきましょう。

先日3月1日に第34回卒業証書授与式を行いました。卒業生がたくましく成長し凛とした姿で本校を巣立っていきました。送辞を言ってくれた生徒会長の植田翔馬君をはじめ、2年生各クラスの代表が立派に式に参列してくれました。卒業生の後ろ姿から伝わるメッセージを各クラスで話してください。それが卒業生全員の願いです。

さて、平成から令和という時代の変わり目に、高校生として過ごした一年が終わりますが、この一年はどうだったでしょうか？学習面でも部活動でも学校行事でも、自分自身を一回り大きく、伸ばすことが出来たでしょうか？自分自身この一年を振り返って、年度当初立てた目標の達成度はどうだったのか、きちんと1年間の振り返りをしてほしいと思います。

4月から、新3年生は最高学年として、大運動会、三国が丘祭など、学校生活をリードしてください。そして、自分の夢や希望を叶える真剣勝負の年です。新2年生は、先輩、後輩をもつ学校の中堅として、蓄えた力を発揮して大きく活躍してください。それぞれ新しい学年での活躍を期待します。

昨年は、ラグビーのワールドカップでの感動が話題となりました。ラグビーは一人一人優れたところが異なり、その良さを生かせるポジションがあり、それぞれが違う場面で活躍できるスポーツです。我々の社会でも同様です。私たちには自分と他人とそれぞれ良いところや弱いところが違います。それを認め合うことが必要です。自分の優れたところを大切にしていって、さらに磨きをかけてください。そして、改めたいところやもっと良くしたいことがあれば、覚悟を持って実際に改めるように作戦を立て、本気で努力してください。

新しい年度を迎え、新しい学年となるこの春休みは、今までのことを、いい意味でリセットして、これからのことを前向きに考えるいい機会です。チャレンジ精神をもって、素直な心で、誠実に行動することが大事です。

皆さんが元気で、いい顔で新年度を迎えられることを願っています。

令和2年3月19日